

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.896
2020.11.15

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき とば めぐみ
とりうみ敏行 金子 あきよ
松村 としお たけこし 連
久保 みき

支援員の処遇改善と 保護者の負担軽減を両輪で



さいたま市学童保育連絡協議会のみなさんと懇談する（奥右から）松村、とばの両市議

さいたま市学童保育連絡協議会と懇談

童支援員にはまったく保障されていません。ほかにも「障害児のための巡回支援をおこなう職員が全市で2名しかおらず、予算もまったく足りていない」など切実な要望が話されました。

とば市議は、「本市の学童保育は職員配置条例の基準は全国でいちばん高いにもかかわらず、委託金の水準が国基準に届かないという大きな矛盾がある。支援員の処遇改善と保護者の負担軽減を両輪でとりくむよう求めていく」と話しました。

10月26日、さいたま市学童保育連絡協議会のみなさんと党市議団が懇談し、松村としお、とばめぐみの両市議が出席しました。

放課後児童クラブ・学童保育で働く支援員の処遇改善は喫緊の課題です。国は「常勤職員」を配置している学童に対して1クラブ315万円の処遇改善費を予算化（負担割合は国3分の1、県3分の1、市3分の1）しています。しかし市が示した予算は1クラブ平均でたったの35万円でした（国・県・市あわせて総額7619万円）。国がつけた予算の10分の1しか使っておらず、国の予算の満額活用が求められます。

また、認可保育所では3～5歳児の保育料が無償化となり、第2子・第3子の保育料の負担軽減や免除の制度がありますが、学童ではクラブごとに保育料が違い、市としての保育料の負担軽減策は不十分です。さらに保育士や介護士には月3～7万円の処遇改善や家賃支援、就職支度金がありますが、学

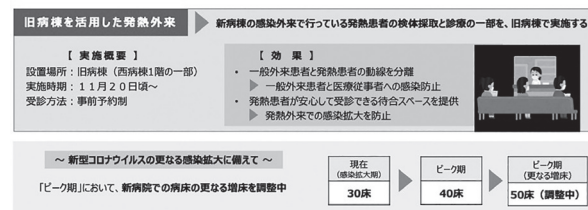
要求実現！市立病院旧病棟 発熱外来として活用へ

11月6日、清水市長が記者会見で、インフルエンザ流行期と新型コロナウイルスのさらなる感染拡大に備えた市立病院の対応について発表しました。そのなかで、市立病院の旧病棟（西病棟の一部）を発熱外来として11月20日頃から活用すること、新型コロナウイルス感染拡大「ピーク期」において、新病院の感染症病床を現在の30床から40床に増床（さらに50床への増床を県と調整中）することを明らかにしました。これまで党市議団がくりかえし求めてきた旧病棟の活用と発熱外来の設置が実現することになりました。

これに先立ち、10月26日、南区の2つの住民団体、南区住みよい町づくり連絡会と南区西・住みよいまちをつくろう会が「市民を新型コロナウイルス感染から守るための要望署名」の第二次分1049筆を市に提出（第一次分との合計は3132筆）し、市立病院旧病棟の活用や検査体制の拡充などを要望しました。懇談には神田よしゆき、金子あきよ両市議が同席しました。この懇談でも、市立病院新病棟の感染症専用病床を拡大する対応



署名の提出に同席する神田、金子の両市議（右から3人目、5人目）



(記者発表資料より抜粋)

をとること、PCR検査は1日600件実施できるようになっているが（最大検査能力1日750件）、学校区に1つ程度の医療機関で検査ができるレベルに増やし、検査可能な医療機関を公表するよう医師会に協力依頼していることが確認されました。

金子市議は「インフルエンザとの同時流行などが懸念されるなか、さらなる新型コロナウイルス感染症の対策と、さいたま市の医療・保健体制の拡充を図るため、引き続き市に対する要望を強める」と話しました。

9月議会報告動画 つくりました

9月議会の様子を知っていただくため、議会報告動画を作成しました。市議団のホームページからご視聴いただけます。

日本共産党さいたま市議団 HP

日本共産党さいたま市議団



真夏もエアコンつけず節約 生活保護利用者の実態知って！



生活と健康を守る会・さいたま市協議会と懇談する党市議団

11 月 9 日、生活と健康を守る会・さいたま市協議会と党市議団が生活保護行政について懇談をおこない、とりうみ敏行、金子あきよ、たけこし連の各市議が参加しました。

同会は、懇談に先立ち市内の福祉事務所を訪問し、「新型コロナ対策」「ケースワーカーの研修体制」「保護費の過誤払いへの対応」等について聞き取り調査をしてきました。

参加者からは、「利用者が保護費を計算で

きる資料を保護決定通知書に添付してほしい」「市のミスによる保護費の過誤払いについては、利用者の生活実態を無視した返還請求はやめるべき」「福祉専門職のケースワーカーを増やし、知識や経験が積めるような体制強化が必要だ」といった声が出されました。

また、電気代節約のために夏場でもエアコンをつけない利用者の実態が報告され、保護費の夏季加算、冬季加算について、国が出さなくても「手当て」として市が出してほしいとの要望も出されました。党市議団として、議会で取り上げ改善を求めています。

荒川の氾濫対策 国の計画を聴取

11 月 5 日、衆議院第 2 議員会館にて、久保みき市議とたけこし連市議が、荒川第 2・第 3 調整池整備計画に関する国土交通省からのヒアリングに出席しました。

荒川第 2・第 3 調整池は、さいたま市桜区羽根倉橋から上尾市開平橋までの左岸河川敷に計画され、2030 年度の完成予定で、全体の事業費は約 1670 億円です。昨年の台風 19 号で、現在ある第 1 調整池（洪水調整容量は 3900 万 m³）に 3500 万 m³まで水が入ったことで、第 2・第 3 調整池の整備（洪水調整容量は約 9000 万 m³）に期待の声が寄せられています。

工事内容は、いまある左岸の高水敷（荒川



ヒアリングに出席する（右から）たけこし、久保の両市議

築堤中の敷地）にあらたな堤防（^{いぎょうてい}囲繞堤）を整備する手法ですが、ヒアリングでは「囲繞堤の果たす役割はなにか」「川越線など堤防より低い箇所の整備強化が優先ではないか」などの質問や意見が出されました。

久保市議は「豪雨や台風時の荒川の氾濫をなんとしても抑えるため、今後に関連する自治体と話し合いを進めながら対策を求めていく」と話しました。

少人数学級

コロナ禍のいまこそ

11 月 9 日に「学びと健康を保障する少人数学級を求める会」と党市議団が懇談をおこない、松村としお、金子あきよ、たけこし連市議が出席しました。

同会は「さいたま市独自で、20 人程度学級を実現すること」を求める請願署名にとりくみ、全会派に賛同の申し入れをおこなっています。懇談では、署名活動を通じて「コロナ禍のもとで現場での要望が非常に強い」「訪問活動で保護者が署名に協力してくれる」などの様子が報告されました。また、文部科学省が少人数学級の実現にむけて動く一方で財務省側が「待った」をかけている状況がある



「学びと健康を保障する少人数学級を求める会」と懇談する党市議団

ことから、市独自にとりくんでいくことの重要性がうたえられました。

党市議団としてはこれまでも少人数学級は学習と生活の両面できめ細かな対応ができ、教員の負担を減らして 1 人ひとりの子どもと向き合ううえで必要なことだとして市独自の実施を求めてきました。松村市議は「コロナ禍で少人数学級の必要性と世論がさらに高まっている。市民と共同して実現に力をつけたい」と決意を述べました。

あなたの身近な議員です



市議(北区)

神田よしゆき



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保 みき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(南区)

金子あきよ



市議(中央区)

たけこし連